鈴っ子

山形市立鈴川小学校　学校だより
令和５年５月 19 日（金）
第２号　校長　鈴木　伸治

「体験」がもたらす子どもの成長

１学期がスタートして約１か月。子どもたちは毎日多様な体験＝学習体験、生活体験、自然体験、仲間づくり体験などをしています。そして、どの学年の子どもたちも体験を通し日々成長していますが、とりわけ１年生は、毎日新しい体験を重ねてみるみる小学生らしくなっています。自分から前向きに取り組もうとする，素敵な子どもたちです。

「体験」が子どもの成長にとって有益であることは、皆さんご存知のことと思います。けれども、体験さえさせれば子どもが自分から学んでくれるわけではありません。体験が学びや成長につながるには、大切な要素があるといわれています。

▲６年生の理科「火が燃え続けるには空気が必要みたい！」

★１　「体験」と「考えること」をセットにする

朝の登校の見守りを終えて玄関に向かって歩いていると、ある男の子が立ち止まって空を見上げていました。「どうしたの？」と聞くと、西の空を指さして「月が出ているよ。」と答えました。さらに「朝なのになぜ出ているんだろう。なぜ白い月なんだろう。」と次々に疑問を話していました。実はこの疑問こそが、興味関心や知的好奇心の芽です。

子どもが体験を通して自分から気づいたことを探究する、自分自身をふりかえり言語化する（話す、書く）ことが、学びや成長につながるのでしょう。

★２　達成感だけでなく、困難に向かったりくやしさを感じたりする体験も必要である

現代のような変化の激しい時代を生き抜くための力の一つとして、「レジリエンス」という言葉が聞かれることがあります。簡単に略すと「困難を乗り越える力」とか「逆境からの回復力」という意味だそうです。

子どもが体験を通して達成感や満足感を得ることは、自己肯定感の育成にとって大切なことです。一方でレジリエンスを育むには、プラスの体験だけではなく、難しいことに挑戦する体験、失敗する、負けるなどのくやしい体験、再挑戦する体験などが大切です。そのような体験を通して、根気強く取り組む、失敗した自分自身を励ます、自分の困り感を伝え必要な助けをもらう、助けに感謝するなど、困難を乗り越えるための社会的スキルが身についていくといわれます。大人の役割はそれをサポートすることと考えます。

★３　実体験と間接／疑似体験とを効果的に行き来する

学校での体験の方法は、大きく種類分けすると３つあると思います。

①直接体験（実体験）・・・植物を植える、楽器を弾くなど本物を体験すること

②間接体験・・・インターネットやテレビなどを通して感覚的に学びとること

③疑似体験・・・実物をブロックに置き換えて考えるように模擬的に学ぶこと

最も子どもの学びや成長に効果があるのは、「直接体験」でしょう。例えば、梅干しを見ただけでつばがこみあげてくる経験はありませんか。それは、梅干しを食べて酸っぱいと感じる直接体験をしているからです。つまり、映像だけでしか梅干しを理解していない人は、つばがこみあげることはないのです。

このように、人は物事を五感＝目、耳、鼻、舌、皮膚を通して総合的な情報として理解します。直接体験が最も大切で特に子どもの時には必要だといわれる所以です。ですから、このような情報をたくさん持っている子どもほど、学習で出てくる物事や場面をリアルに想像することができるのだと思います。

しかしながら、直接体験ばかりを確保できない現状でもあります。ですから、それを補うために、間接体験や疑似体験を効果的に行うこと（タブレットの活用等）を大切にしていきたいと思います。

おめでとう！　第 149 回　創立記念式

去る４月２８日（金）に、鈴川小 149 歳のお祝いをしました。

児童代表のお友達からは，よりよい鈴川小学校にしていきますとの発表がありました。

また、同窓会長の武田幸太郎様からは，ご自身の小学校生活の思い出等お話しいただきました。武田様、お忙しい中ご臨席賜り、誠にありがとうございました。

6月の行事予定

２日（金）下学年　音楽教室
６日（火）朝会（陸上壮行式）
　　プール清掃（５年+職員）
　　山形市陸上運動記録会
９日（金）～１６日（金）の間　保護者面談
１２日（月）１年心電図検査
２０日（火）・２１日（水）
　　５年宿泊学習
２３日（金）いのちの日・児童委員会活動
２６日（月）幼保小連絡会
３０日（金）上学年　音楽教室

学校ホームページも更新中！
https://www.suzukawa-e.ymgt.ed.jp/